

平成24年6月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年2月3日

上場取引所 大

上場会社名 アクモス株式会社

コード番号 6888 URL <http://www.acmos.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 飯島 秀幸

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営情報管理部長 (氏名) 中川 智章

四半期報告書提出予定日 平成24年2月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

TEL 03-5217-3121

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年6月期第2四半期の連結業績(平成23年7月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(％表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年6月期第2四半期	1,310	△17.0	△153	—	△140	—	△144	—
23年6月期第2四半期	1,579	△20.7	20	—	24	—	△20	—

(注) 包括利益 24年6月期第2四半期 △147百万円 (—％) 23年6月期第2四半期 △18百万円 (—％)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年6月期第2四半期	△1,491.40	—
23年6月期第2四半期	△212.53	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年6月期第2四半期	2,084	1,438	64.7
23年6月期	2,351	1,615	64.7

(参考) 自己資本 24年6月期第2四半期 1,347百万円 23年6月期 1,522百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年6月期	—	0.00	—	300.00	300.00
24年6月期	—	0.00	—	—	—
24年6月期(予想)	—	—	—	200.00	200.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年6月期の連結業績予想(平成23年7月1日～平成24年6月30日)

(％表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,400	2.4	100	△17.4	100	△20.2	80	88.5	824.78

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年6月期2Q	102,154 株	23年6月期	102,154 株
----------	-----------	--------	-----------

② 期末自己株式数

24年6月期2Q	5,159 株	23年6月期	5,159 株
----------	---------	--------	---------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年6月期2Q	96,995 株	23年6月期2Q	96,995 株
----------	----------	----------	----------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項等については、3ページをご覧ください。

○添付資料の目次

1.	当四半期決算に関する定性的情報	2
(1)	連結経営成績に関する定性的情報	2
(2)	連結財政状態に関する定性的情報	3
(3)	連結業績予想に関する定性的情報	3
2.	サマリー情報(その他)に関する事項	4
(1)	当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2)	四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3)	会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3.	継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
4.	四半期連結財務諸表	5
(1)	四半期連結貸借対照表	5
(2)	四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3)	四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4)	継続企業の前提に関する注記	10
(5)	セグメント情報等	10
(6)	株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10
(7)	重要な後発事象	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間(自平成23年7月1日至平成23年12月31日、以下「当四半期」という)におけるわが国経済は、東日本大震災の影響を受けた生産供給網が概ね復旧し、心配された夏場の電力不足も大口需要者による操業日の調整などの節電対策により大きな影響が出ることなく、震災直後の状況からは一定の回復を見ることができました。一方で、欧州諸国の財政問題に伴うユーロ危機、中国を始めとする新興国の景気減速などの影響により、世界的な景気回復のペースが鈍化しており、高水準の円高、原油高も続いていることから、国内景気にも不透明な状態が増してきております。

企業の設備投資には更新や復興需要に伴う投資により回復傾向が見られるものの、当社グループの主要事業である情報技術事業にかかわるIT投資の案件については、案件数、受注金額の回復の遅れが続いております。前第2四半期連結累計期間(自平成22年7月1日至平成22年12月31日、以下「前四半期」という)では官公庁のシステムリプレース案件があり業績に貢献いたしましたが、当四半期には同様の案件が見込めなかったことから営業に注力いたしました。新規取引先獲得の一方で、主要なお客様において、電力系システム分野での案件数減少や、IT投資計画の見直しが実施されたこと、お客様先に常駐している当社の技術者に対しても夏季の節電対策シフトが適用されたことから十分な売上高の獲得が困難となり、売上高は1,310百万円となり前四半期の売上高1,579百万円から268百万円減少いたしました。営業利益、経常利益については同様の理由のほか、一部の請負案件で開発期間が想定より長期化するなどの理由により利益率の低い案件が多くなったことや、アクモス株式会社において独自ブランド製品開発にかかる研究開発費を30百万円計上していることにより、当四半期は営業損失153百万円(前四半期は営業利益20百万円、前四半期比173百万円減少)、経常損失140百万円(前四半期は経常利益24百万円、前四半期比164百万円減少)となっております。第2四半期連結会計期間では赤字や利益率の低い案件を中心に上位職の担当者を充てて改善対策を実施し、損失の拡大を防ぎました。前四半期では40百万円の特別損失の発生がありましたが、当四半期では特別損失は0.4百万円に留まりました。これらの結果、四半期純損失144百万円(前四半期は四半期純損失20百万円、前四半期比124百万円損失が増加)となっております。

セグメント別の業績は以下のとおりです。

(ITソリューション事業)

アクモス株式会社において、前四半期に官公庁のシステムリプレース案件による売上301百万円があったため、この売上がなくなった当四半期においては売上高が減少いたしました。また、請負契約にて受注した案件において開発期間の長期化により原価が想定を上回って発生した案件が複数発生し、これらの不採算案件については個別に改善の対応を実施しております。このほか、新規にCTI(注)等を活用した自社ブランド製品を開発するための研究開発を実施しており、当四半期中にデモンストレーション用の試作システムを制作いたしました。また、市場調査活動も平行して進めており、これらの研究開発活動にかかる経費として、販管費に研究開発費を30百万円計上しております。ACMO Sソーシングサービス株式会社は、新たに独立行政法人系の2病院において、医療システムの運用保守業務を開始し、ほぼ予定通りの業績となっております。これらの結果、ITソリューション事業の売上高は1,134百万円(前四半期は1,377百万円、前四半期比17.7%減)、営業損失131百万円(前四半期は営業利益47百万円)となりました。

(注)CTI(Computer Telephony Integration System):電話とコンピュータの統合システム

(ITサービス事業)

株式会社エクスカル(IT製品のテスト事業)では、規格認証や検証技術者の派遣では前四半期に比べ売上が伸びておりますが、第三者検証分野の受注が半減していることから、売上高は前四半期比で12.6%減となっております。また、前連結会計年度に実施した事業再構築による固定費の削減効果が現れており、前四半期に比べ営業損益が2百万円改善してきております。

株式会社ジイズスタッフ(情報処理サービス事業)においては、学校法人等の開拓が進み、売上高は、前四半期を上回る業績となっております。また、前連結会計年度に本社移転を行なったことにより固定費の削減効果があり、販管費が4百万円減少し、営業利益も前四半期に比べ5百万円増加いた

しました。

I T サービス事業全体では、売上高215百万円(前四半期は、売上高223百万円、前四半期比3.6%減)、営業利益25百万円(前四半期は営業利益17百万円、前四半期比47.5%増)となっております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

総資産は前連結会計年度末に比べ267百万円減少し、2,084百万円となりました。仕掛品が127百万円増加した一方、現金及び預金が246百万円、受取手形及び売掛金が113百万円減少したことが主な要因であります。

(負債)

負債は前連結会計年度末に比べ90百万円減少し、645百万円となりました。未払費用が103百万円減少したことが主な要因であります。

(純資産)

純資産は前連結会計年度末に比べ177百万円減少し、1,438百万円となりました。配当金の支払29百万円及び四半期純損失144百万円の計上が主な要因であります。

②キャッシュ・フローの状況に関する分析

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ269百万円減少し、807百万円となりました。

各キャッシュ・フローの区分の状況とそれらの要因は以下のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、183百万円の支出(前四半期は60百万円の支出)となりました。これは、売上債権の減少等141百万円があった一方、税金等調整前四半期純損失140百万円、棚卸資産の増加額127百万円等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、19百万円の支出(前四半期は2百万円の支出)となりました。これは、主に敷金及び保証金の回収による収入19百万円があった一方、定期預金の預入と払戻による純額23百万円の支出、有形及び無形固定資産の取得による支出18百万円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、66百万円の支出(前四半期は17百万円の支出)となりました。これは、主に長期借入金の返済37百万円、配当金の支払28百万円によるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年8月3日付「平成23年6月期 決算短信」において発表した連結業績予想に変更はありません。詳細は、平成24年1月31日付「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,217,855	971,848
受取手形及び売掛金	451,793	337,837
仕掛品	42,096	169,732
原材料及び貯蔵品	189	154
前払費用	14,663	21,543
短期貸付金	5,494	5,577
未収入金	19,444	1,250
繰延税金資産	7,552	7,933
その他	4,015	1,779
貸倒引当金	△4,390	△2,265
流動資産合計	1,758,715	1,515,391
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	259,364	259,364
減価償却累計額	△131,059	△135,719
建物及び構築物(純額)	128,305	123,644
工具、器具及び備品	108,118	110,122
減価償却累計額	△81,665	△86,816
工具、器具及び備品(純額)	26,452	23,305
土地	68,836	68,836
有形固定資産合計	223,594	215,786
無形固定資産		
のれん	268,342	240,459
ソフトウェア	7,080	14,017
ソフトウェア仮勘定	9,276	18,158
電話加入権	1,481	1,481
無形固定資産合計	286,181	274,117
投資その他の資産		
投資有価証券	16,668	15,461
敷金及び保証金	41,211	41,138
長期貸付金	25,277	22,468
その他	71	60
貸倒引当金	△30	△22
投資その他の資産合計	83,198	79,107
固定資産合計	592,974	569,011
資産合計	2,351,690	2,084,403

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年6月30日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	75,539	76,460
短期借入金	20,000	20,000
1年内返済予定の長期借入金	71,470	56,040
預り金	10,977	31,422
未払金	84,536	84,510
未払費用	208,549	105,412
未払法人税等	14,533	9,636
賞与引当金	16,100	23,662
前受金	46,424	75,437
その他	21	—
流動負債合計	548,151	482,582
固定負債		
長期借入金	163,750	141,250
長期前受金	16,800	15,531
その他	7,067	6,133
固定負債合計	187,617	162,914
負債合計	735,768	645,497
純資産の部		
株主資本		
資本金	693,250	693,250
資本剰余金	1,176,282	1,176,282
利益剰余金	△295,392	△469,149
自己株式	△53,911	△53,911
株主資本合計	1,520,228	1,346,471
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,449	1,318
その他の包括利益累計額合計	2,449	1,318
少数株主持分	93,244	91,116
純資産合計	1,615,921	1,438,905
負債純資産合計	2,351,690	2,084,403

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年12月31日)
売上高	1,579,367	1,310,952
売上原価	1,084,482	960,284
売上総利益	494,884	350,668
販売費及び一般管理費	474,451	503,697
営業利益又は営業損失(△)	20,433	△153,029
営業外収益		
受取利息及び配当金	939	676
保険配当金	2,758	2,893
助成金収入	—	8,246
その他	3,208	3,291
営業外収益合計	6,907	15,108
営業外費用		
支払利息	3,180	2,581
その他	8	2
営業外費用合計	3,189	2,584
経常利益又は経常損失(△)	24,151	△140,505
特別利益		
事業再構築引当金戻入額	7,780	—
特別利益合計	7,780	—
特別損失		
固定資産除却損	—	102
投資有価証券評価損	5,980	—
本社移転費用	26,750	—
特別退職金	3,230	—
契約解除損失	4,151	300
その他	710	—
特別損失合計	40,823	402
税金等調整前四半期純損失(△)	△8,892	△140,908
法人税、住民税及び事業税	3,025	5,515
法人税等調整額	8,257	362
法人税等合計	11,282	5,877
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△20,175	△146,785
少数株主利益又は少数株主損失(△)	438	△2,127
四半期純損失(△)	△20,613	△144,658

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△20,175	△146,785
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,680	△1,130
その他の包括利益合計	1,680	△1,130
四半期包括利益	△18,494	△147,916
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△18,933	△145,788
少数株主に係る四半期包括利益	438	△2,127

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年7月1日 至平成22年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年7月1日 至平成23年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失(△)	△8,892	△140,908
減価償却費	13,665	12,341
貸倒引当金の増減額(△は減少)	123	△2,132
賞与引当金の増減額(△は減少)	8,439	7,562
のれん償却額	27,882	27,882
受取利息及び受取配当金	△939	△676
支払利息	3,180	2,581
投資有価証券評価損益(△は益)	5,980	—
固定資産除却損	—	102
本社移転費用	14,467	—
売上債権の増減額(△は増加)	△10,833	141,699
たな卸資産の増減額(△は増加)	△84,703	△127,599
仕入債務の増減額(△は減少)	28,983	920
その他の資産の増減額(△は増加)	△19,897	△7,211
その他の負債の増減額(△は減少)	△29,306	△86,895
小計	△51,848	△172,332
利息及び配当金の受取額	825	705
利息の支払額	△2,958	△2,444
法人税等の支払額	△6,825	△9,441
営業活動によるキャッシュ・フロー	△60,807	△183,512
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△21,020	△59,000
定期預金の払戻による収入	49,667	35,601
有形固定資産の取得による支出	△8,317	△9,193
無形固定資産の取得による支出	△2,812	△8,881
敷金及び保証金の差入による支出	△23,422	△149
敷金及び保証金の回収による収入	353	19,029
貸付金の回収による収入	2,646	2,726
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,905	△19,866
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	20,000	20,000
短期借入金の返済による支出	—	△20,000
長期借入金の返済による支出	△37,930	△37,930
配当金の支払額	—	△28,112
財務活動によるキャッシュ・フロー	△17,930	△66,042
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△81,643	△269,421
現金及び現金同等物の期首残高	1,011,766	1,077,169
連結子会社の決算期変更による現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	24,933	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	955,055	807,748

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成22年7月1日 至 平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ITソリューション事業	ITサービス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,356,970	222,397	1,579,367	—	1,579,367
セグメント間の内部売上高 又は振替高	20,718	770	21,488	△21,488	—
計	1,377,688	223,167	1,600,855	△21,488	1,579,367
セグメント利益	47,063	17,140	64,203	△43,770	20,433

(注) セグメント利益の調整額△43,770千円には、のれん償却額△27,882千円、報告セグメントに配分していない
全社費用△16,049千円、その他の調整額161千円を含んでおります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成23年7月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	ITソリューション事業	ITサービス事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,095,915	215,036	1,310,952	—	1,310,952
セグメント間の内部売上高 又は振替高	38,595	—	38,595	△38,595	—
計	1,134,510	215,036	1,349,547	△38,595	1,310,952
セグメント利益	△131,176	25,279	△105,897	△47,131	△153,029

(注) セグメント利益の調整額△47,131千円には、のれん償却額△27,882千円、報告セグメントに配分していない
全社費用△19,349千円、その他の調整額101千円を含んでおります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(7) 重要な後発事象

該当事項はありません。